



- 全市町村に鉄道が通る本県の強みを活かし、鉄軌道や駅を中心に、あらゆるサービスが一つにつながるネットワークを県全体で形成し、ウェルビーイングを向上させる持続可能で最適な地域交通サービスを実現。
- 県民に発信・共有を図りながら、実現に向けて目指すべき4つの姿について具体的な方策等を検討。

(目指すべき姿その1)
鉄軌道サービスの利便性・快適性向上
→P.2




(目指すべき姿その4)
ネットワーク内のサービスの統合・進化
→P.3



(目指すべき姿その2)
結節点となる駅の機能強化
→P.2



(目指すべき姿その3)
地域内のモビリティサービスの確保
→P.3



富山県の地域交通ネットワークの目指すべき姿 ②

(目指すべき姿その1)

鉄軌道サービスの利便性・快適性向上

○本県の地域交通ネットワークの「骨格」となる鉄軌道を中心としたネットワークを実現。

<ポイント>

- ・鉄軌道サービスの利便性・快適性を強力に向上
- ・現行レベルから上乗せするサービスレベルの達成のため、自治体が積極的に関与
- ・駅中心のまちづくりを進める市町村と連携
- ・通学・通勤・通院、観光、買い物等、関連分野との連携を強化（関連部局の予算等の総動員）

(目指すべき姿その2)

結節点となる駅の機能強化

○まちづくりの中心となる駅を「拠点」化し、快適な乗継ぎができるネットワークを実現。

<ポイント>

- ・市町村のまちづくりと連携（市町村が立地適正化計画等で地域の中心に位置づけた駅と連携）
- ・駅での乗継ぎの円滑化のため、自治体が積極的に関与
- ・地域の拠点（学び、交流、子育て等）として駅空間を活用（＝待ち時間の有効活用）
- ・まちづくり、学び、交流、子育て等、関連分野との連携を強化（関連部局の予算等の総動員）



富山県の地域交通ネットワークの目指すべき姿 ③

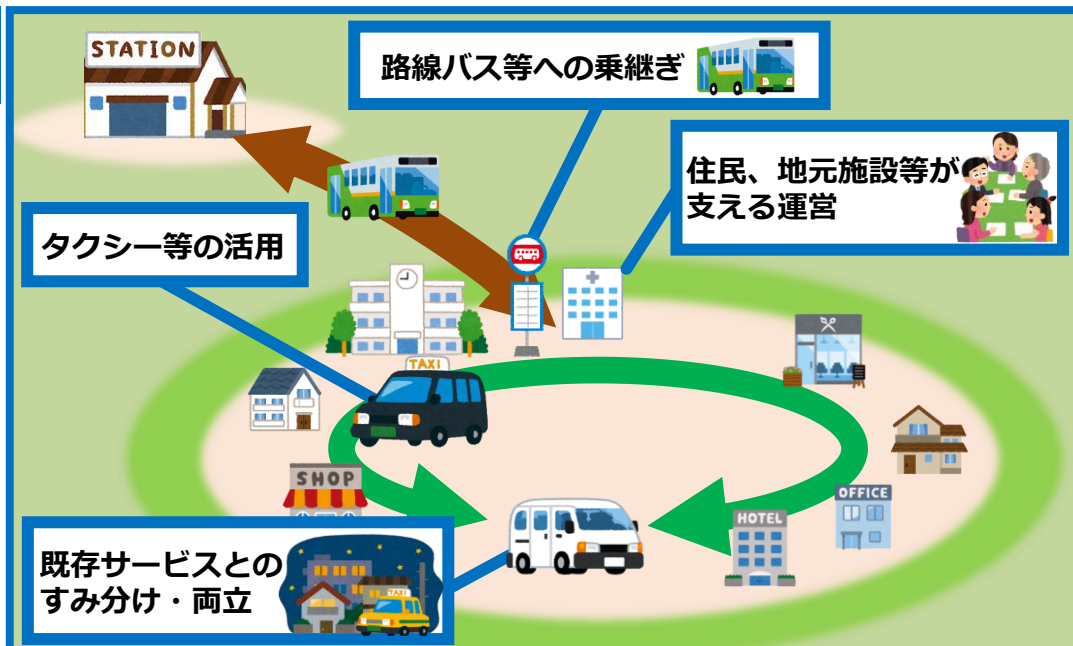
(目指すべき姿その3)

地域内のモビリティサービスの確保

○自宅から最寄りの施設までの身近な移動（ファーストワンマイル）を支えるネットワークを実現。

<ポイント>

- ・地域住民、地元企業・店舗など、地域全体が受け手にも支え手にもなるサービス
- ・路線バス等への乗継ぎや一体的な利用促進
- ・地元のタクシー・バス会社と協力した運行等
- ・タクシーなど既存の交通サービスとの両立
- ・免許返納、子育て等、地域の生活課題との連携を強化（関連部局の予算等の総動員）



(目指すべき姿その4)

ネットワーク内のサービスの統合・進化

○これまでにないサービスの創出等により、出かけたくなる、乗りたくなるネットワークを実現。

<ポイント>

- ・データ連携基盤の整備、MaaSによりネットワーク内のサービスを統合・進化
- ・オープンデータ化や関係者間共有に必要なデータ連携基盤の整備等に対し、自治体が積極的に関与
- ・鉄道やバスなどモード横断的なサービスや、観光・宿泊施設や商店等と一緒に創るサービス
- ・何度も乗りたくなるサービス・仕掛けづくり
- ・観光、商店、環境、健康増進等、関連分野との連携を強化（関連部局の予算等の総動員）

